

ぐりぐりスイートピア

ぐりぐりやまの
輝く女性たち、
大集合！

「笑顔が大事なの！
でも今日はちょっと
緊張するわね〜」と、
太田タカ子さん。

仲間と共に、 踊って笑って 救われて。

レッスンの外までキャットキヤと響く、女子高生のようなおしゃべり。今日の撮影のことなのか、振り付けの確認なのか、あちこちで話が弾んでなんだか楽しそう…。本番用の色鮮やかな衣装も相まって、ポジティブなパワーがみなぎっています。皆さーん、とってもお元気ですね。「そうでしょう！私は78歳、あの人は89歳、ふふふ、みんな言いたい放題で仲良いのよ」と話してくれたのは、ずっと伸びた背筋が印象的な代表の太田タカ子さん。町の協力を経て栗山唯一のフラサークルを立ち上げたのは、かれこれ18年前のこと。現在は当時のメンバーを含め、10名の仲間たちとともに毎週1回のレッスンを心待ちに過ごしているようです。「とにかくここに来る

ことが楽しみなの！何があっても休まないもの。辛いことがあってもね、踊りが励ましてくれるのよ」それぞれに日常があり、家庭があり、年齢も好みも違う人たちが、一丸となってキラキラと目を輝かせながら夢中になっている。その「フラ」の魅力って、どんなものなのでしょう。今回の撮影で披露してもらった曲は『スイートトレイ・モキハナ』をはじめ3曲。普段とは違うセッ

トに最初は戸惑っていたものの、カメラの前に立てば皆さーん、お手の物。待機組から「笑顔で！」「お腹引っ込めて！」なんて、叱咤激励？が飛び交いながらも和気あいあいとまあ楽しいこと。見ているこちらまで自然と心が躍り出しました。

(次ページへつづく)

フラ・スイートピア

○活動場所：勤労者福祉センター
〒069-1511 栗山町中央3-311
○お問い合わせ：栗山町教育委員会
TEL 0123-72-1117

集まれば笑顔がパツと咲く、『フラ・スイートビー』の皆さん。



コロナ禍前はフラの本場ハワイへ赴き、踊りを披露したことも。

チームのモットーは若さと健康！

月に3回、『マイレ本間フラスクール』のアカラニ・オ・マイレ清水先生を千歳から招いてレッスン。『マイレ本間フラクール』は日本にフラを広めた第一人者、マイレ本間率いる日本最大級のフラスクール(北海道だけでも生徒数4〜5000人!)で、その振り付けに多くの人が魅了されています。フラはご存知の通りハワイ発祥の民族舞踊です。古来では神々に捧げる神聖な儀式として男性のみが踊るものとされてい

ましたが、現代フラ(アウアナ)の発展により、日本人にも広く知られるようになりました。『フラ・スイートビー』の踊りも、この現代フラと呼ばれるもので上品で優美な踊りが特長です。皆さんのレッスンのモチベーションになってくれているのが、なんといっても「人前での披露目的の場」。取材時は11月に控える栗山町『第54回芸能祭』に向けて奮闘中でした。1年かけた練習の成果を見せる晴れ舞台とあって、皆さんの気合も十分。



フラ・スイートビー 代表 太田タカ子

長年続いていた仕事が一段落して見つけた趣味がフラ。ダンスの経験が全くない中、60歳の時に栗山町の体操サークルで出会ったメンバーと『フラ・スイートビー』を立ち上げる。これまで習った曲数はざっと49曲。笑顔を大切にしながら踊りを心掛けてい



「踊りっていうのは振り付けを覚えれば良いというものではないのよね。一人だけが踊れていても、みんなそろってないとダメ。1年踊ってやっと舞台上に出られるのよって、先生から教わっています」と太田さん。芸能祭が終わると、翌年に向けた新曲のレッスンを始めます。最後にこれからの目標をお聞きすると、期待以上に頼もしい返事がありました。「もちろん、まだまだ続けるわよ! 10年は必ず! だって健康で若くあり続けたいのよ」。踊りが好き、仲間が好き、毎週水曜日この日が元気の源といってもいいでしょう。「レッスンは13時30分からだけど、先生もみんなも30分前には来るの。早く来る理由? みんなでおしゃべりしたいじゃない(笑)」。



日本舞踊、由緒ある西川流

優雅で気品のある日本舞踊ですが、習い事としては少しハードルが高く感じています。「そんなことないですよ。お稽古は浴衣でもいいんです。気軽に興味を持っていただけたらいいですね。今回お話を伺ったのは宗家西川流日本舞踊師範の西川禄梅(ろく)うめさん。最初は戸惑うことが多くても、新しい世界に足を踏み入れるのですからそれはどんな習い事でも同じです。そう考えると、異文化になりつつある日本の伝統文化に触れ、さらに礼儀作法が身に付けられる日本舞踊は大人の習い事としてとても魅力的なのではない? 禄梅さんの美しい立ち振る舞いを見ていると、緩んでいく心の姿勢を直すことができそうです、ますます憧れが募ってきました。



さまざまな舞台に出演。珍しく男形を演じた禄梅さん。

西川流禄梅会栗山支部には現在、栗山町内外の20〜90代の生徒が在籍しています。中には栗山町の『芸能祭』での踊りを目にして、日本舞踊への扉を開いた方もいらっしゃるのだとか。「毎年お披露目している舞台で、そういった反響があったのはうれしいことですね」と禄梅さん。毎週木曜日は10時に稽古場に入り、凛とした空気の中で生徒一人ひとりと向き合っって指導。一番に伝えたいことは「素直な踊り」。無理をしない、大袈裟にしない、心のままの表現こそが西川流。古典

踊りもまだまだ、これからよ



西川流禄梅会栗山支部
○稽古場: 朝日会館 〒069-1513 栗山町朝日3
○お問い合わせ: 栗山町教育委員会 TEL 0123-72-1117



時に厳しさも見せる通常のお稽古。



を大事にしていることから通常は長唄を使いますが、時代に合わせて演歌も取り入れています。また、驚いたのがご自身も「まだまだ勉強中」ということ。「上には上がいるので、常に学ばせてもらっています。お勉強が終わることはないんじゃないかしら」。生徒さんの中には60代も多いようですが、日舞の世界ではこれからの年齢。なにかを始めること、なにかを学ぶことが、若々しさの秘訣なのかもしれません。



小学校の手話指導では、歌に乗せて楽しくレクチャー。

心でつながる、くりやま手話の会

手話にも方言があるってご存知でしたか？ 話し言葉に標準語と方言があるように、地方それぞれの文化を反映した手話があるんです。そんな意外なお話をしてくれたのは、『くりやま手話の会』会長の村上美佳さんです。「そもそも手話は世界共通ではないんですよ。地域によって環境や文化が違いますから、同じ日本国内でも表現が変わってくるんです」。例えば「水」だけでも、柄杓で飲む仕草や、蛇口を回す仕草など5種以上。「何種類もあって覚えるのが大変だけど、その土地で生まれた言葉を大切にしたいんですよ」と村上さん。方言だけでなく、略語や造語といった若者言葉も続々と作られており、その奥深さに「学ぶ楽しさ」を見出す人が多いうようです。

どこかで誰かの役に立てたら

成人式での通訳、小学校や養成講座での指導などで活躍している村上さんですが、『くりやま手話の会』の会員になった22年前は全くの初心者でした。「とあるドラマを観て、ふと気付いたんです。同じ日本人なのに耳の聞こえない人とは話せないなんて…。じゃあ私が手話を通じて…。じゃあ私が手話を通じて…。じゃあ私が手話を通じて…。」



「週に一度の練習をマイペースに進めながらも、10年後には難易度の高い『手話通訳者全国統一試験』に合格。現在は



手話は腕の動きだけでなく口形や表情も大事なポイント。

くりやま手話の会

○活動場所：
栗山町総合福祉センター「しゃるる」
〒069-1513 栗山町朝日4-9

手話通訳者として空知・石狩地方を中心に通訳活動をしているほか、『くりやま手話の会』では小学生から社会人の会員に指導をしています。ここまで長く続けられたのは「伝えたいことを手話で表せる楽しさ」また「通じ合える喜び」の積み重ねがあるから。手話を通して出会った人たちのためにも、まだまだ続けたいと話します。「第二言語として身に付けた手話のスキルは私にとって一生もの。いつか自然な流れで人の役に立ちたいですね」。

まちの本屋といえば金岩商店



「ポジティブなことしか喋らないのよ!」と話す金岩さん。

前向きで、明るくて、ハッピーで、パワフルで…初対面にも関わらずいろいろな形容が駆け巡る『金岩商店』の看板娘、金岩和恵さん。「あら、いらっしやい!」「予約のあれね!」。次々と訪れる常連さんに声を掛け、チャキチャキとお店を切り盛りする姿は見ていて爽快です。



なによりも人が好きなのよ

栗山町民なら誰もが一度は訪れたことがある『金岩商店』は、70年以上も続く駅前の本屋さん。ざっと見渡したところ本のほかにも、文房具やおもちゃの品ぞろえも豊富です。絵の具も一色ずつ売っていたり、流行りのキャラクターものがある。

菓子屋や八百屋のよう。人と人、人とのつながりを大切にしている金岩さんの人柄もあって、なんだかホッと和みます。「ただ商品を売るだけではなくて、おもてなしの心があるお店にしたいのよ。なにかしてもらった記憶は忘れないじゃない?」。そんな思いがあるのも、東京でバンド活動をしてきた時にさまざま

金岩商店

〒069-1511 栗山町中央2-60
TEL 0123-72-0030
営業時間 9:30~18:30(平日)
9:30~18:00(土曜日・祝日)
休休み12:30~13:30
定休日 日曜日
https://www.instagram.com/kanaiwasyoten/



50年超の歴史を誇る名取屋

栗山町のソウルフードの中でも、これからの寒〜い時期に恋しくなるのはこちらでしょう。昭和46年創業『食事処 名取屋』のホルモン鍋定食！一人前の鍋に熱々の味噌スープ、お豆腐、その下には柔らかなモツがたっぷり。味噌のコクとほのかな甘みがクセになり、体の芯から温まります。これは半世紀以上人気があるのも納得。地元はもちろん町外からも訪れる人が多いのは、3代目の伊藤広美さんが発信するインスタグラムの効果も大きいのでは。「うれしいことに札幌から来られる方も増えましたね。これはいいかも！」という閃



お年寄りからお子さままで食べやすい柔らかなモツ。寒い冬もスタミナ回復。



きは日々大事に出来るだけ直ぐにネタにしています」と伊藤さん。2年前に栗山町に帰ってくるまで海外で暮らしていた伊藤さんですが、家業を盛り上げようとインスタグラムを開設。海の向こう側からお店の情報を更新していました。「コロナ禍の不安もあって、世の中の流れに対応しなきゃと思ったんです。父にはいまだに『インスタグラムって何だ？』って言われています(笑)」

物価が上がり、便利なものが増え、文化も流行も移り変わった50年。しかし名取屋のホ

この店とホルモン鍋を守りたくて

「思い出のあの味を食べたい！」そんな気持ちで来てくれたお客さんの気持ちを大切にしたい」と語ります。昨年からはキムチやニラなど、いつもの味にプラスαを楽しめるトッピングをメニューに追加。もっと広く知ってもらいたいため、伊藤さんの挑戦はまだまだ続きます。

食事処 名取屋

〒069-1513 栗山町朝日3-9
TEL 0123-72-2234
営業時間 10:30~14:30/
17:00~19:00
定休日 水曜日
<https://www.instagram.com/natoriayahorumon/>

くりエイターズマーケットから。



オープンから6年を迎えた『くりやまくりエイターズマーケット』。今期のマーケット内には新規7組を含む28組の作品が並んでいます。くりエイターの一人、『Small Needle(スモールニードル)』の小針寛子さんは、町内作家では一番出展歴が長く、今年で6回目。ピアスやブローチなどのアクセサリ、布製品ではヘアゴムやミニハンカチなどを制作しています。

で小さな頃から物づくりをしていたというだけあって、繊細な技術はさすがのものです。もう一つ見せてもらったお花モチーフのピアスも、大人が着けたくなる上品なデザインと、負担にならない軽さが魅力的。かしまったシーンでなくても、いつもの洋服に『Small Needle』のアクセサリをプラスするだけで、自然と気分が上がりそうです。

目に止まったのはぶつくりキラキラのヘアクリップ。「ラメやシエルパーツを約10層のレジンで閉じ込めています。重ねることで煌めきに奥行きが出るんですよ」と小針さん。手芸好きのお母様の影響

くりエイターである小針さんは、月に2回ほどマーケットでお店番をしています。「他の作家さんの作品は私には思いつかないデザインばかりで刺激になりますね！欲しいものがいっぱい楽しいです」と話すように、マーケット内は個性がギョツと凝縮。皆さんもワクワクに会いに来ませんか？



くりやまくりエイターズマーケット(不定期営業)
〒069-1511
栗山町中央3-6(栗山駅から徒歩1分)
営業時間 11:00~17:00

営業状況や、店番のくりエイターはこちらをチェック!
くりやまくりエイターズマーケット

読者プレゼント

本誌についてのアンケートにご協力ください。お答えいただいた方の中から抽選で5名様に、『くりやまくりエイターズマーケット』で選んだとおきの作品を、詰め合わせてプレゼントいたします。



※写真は一例です。

アンケートはこちら→
<https://www.harplg.jp/KyhcsZmg>



本誌について、くりやま若者シティプロモーションについてのお問い合わせ

栗山町若者定住推進課

TEL 0123-73-7521
FAX 0123-72-3179



くりやまほっとらいふ



くりエイトするまち



KURIYAMA TOWN